

暁木会会員 各位

平成 22 年 3 月 吉日
暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 16 号では母校に関する話題を多く載せました。近況報告に始まり、就職状況や、研究報告、インターンシップ報告、今年から暁木会に入会される学生さんの思い出メッセージなど、読み応えのある内容となっています。また、同窓の活躍や支部活動等に関する内容もございます。ぜひご通読頂けますようお願いいたします。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載する予定ですのでご覧下さい。

母校の近況報告

教授 中山 昭彦先生[Ⓔ]

暁木会会員の皆様

暁木会会員諸兄の皆様には常日頃から多大なるご支援を賜り心から御礼申し上げます。年度終わりにあたり大学と市民工学教室の近況を報告させていただきます。

公務員改革の一環で国立大学が独立法人化され 5 年、学部組織としての旧土木工学科が建設工学科土木コースを経て市民工学科として生まれ変わり 3 年が経過し、今年は建設学科入学生を正規に送り出す最後の年になります。また大学院組織の自然科学系研究科が重点化されそれまでの建設学専攻、地域空間創生科学専攻が市民工学専攻に統一され 3 年になり、最初の市民工学専攻博士後期課程修了者が学位を取得することになります。学舎改修も平成 14 年より順次進められ、都市安全研究センターなど一部を残し最終段階となっています。本年度は組織改革、施設整備とも一段落ついたところで大きな変革はありませんでしたが、工学研究科では、情報知能学専攻が中心となり、新しくシステム情報学研究科の設立が計画され、平成 22 年 4 月の発足が決まっております。日本ではじめて「計算科学」の学位を授与することができるようになります。

その他のニュースにつきましては、神戸大学ホームページとともに、速報性と内容を充実させてきております市民工学のホームページ

(<http://www.eng.kobe-u.ac.jp/department/civil.html>) でも閲覧していただけます。

本年度も市民工学教室は、日本技術者教育認定機構 (JABEE) の認定基準に沿った教育を行なうなど改善を進めてまいりました。その過程で暁木会の皆様には多岐にわたりご協力ご支援を頂いてきました。特に、プロジェクトマネジメント、国際関係論などの科目におきましては講師としてご協力をいただき、学生にも好評を得ております。また、インターンシップでは多くの学生を受け入れて頂き誠に感謝いたしております。年 3 回の意見交換会では、その他いろいろな助言をいただき、教室運営も順調に進んでいるところであります。

教室の構成員の異動につきましては、平成 21 年 10 月 1 日に山梨大学から大石哲先生が都市安全研究センター、リスクコミュニケーション大研究分野教授に、また同じ 10 月 1 日に河井克之先生がリスクアセスメント大研究分野の准教授にそれぞれ昇任されました。また 4 月 1 日付けにて斎藤雅彦助教が都市安全研究センター専任から自然科学系先端融合研究環（ただし、都市安全センターもこの研究環状の一組織）の専任助教となっております。6 月 1 日には近藤克大氏を技術職員としてお迎えしております。平成 22 年 3 月 1 日現在の教室の教員構成は下表のようになっております。

一方、大学、社会をとりまく情勢は、一昨年の世界的金融危機の影響が大きく、就職また学生生活も非常に厳しい状況になっております。さらに昨年の政権交代以来公共事業の見直しなどがなされ、土木技術者の養成と教育を行う立場としての市民工学教室の教員としては肩身の狭い思いをしております。こういった状況の中で、大学間での学生獲得競争や学生の就職競争はますます激しくなり、入学受け入れ学生や学生の就職先は国内だけに限らず、世界へと拡げていくことが求められています。本年は 4 名の外国人学生が博士前期課程入試を受験し 3 名が合格しております。今後は国内の優秀な学生を獲得するとともに、外国からの入学者も募集し入学させていくことが必要になってきます。

以上のように、土木工学を専門とするものにとって多難な時代を迎えつつあると言えますが、このような時代に合っこそ、暁木会の会員皆様のさまざまなご支援、ご協力は何にも代え難く、市民工学専攻・市民工学科にとって大きな支えとなっております。教室を代表して改めて御礼申し上げますとともに、引き続きご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

表 市民工学専攻・市民工学科の教育研究体制（平成 22 年 3 月 1 日現在）

大講座	教育研究分野	教授	准教授	助教
人間安全工学	構造安全工学	川谷充郎	三木朋広	
	地盤安全工学	澁谷 啓	加藤正司	鳥居宣之
	交通システム工学	喜多秀行	竹林幹雄	
	地盤防災工学	田中泰雄	吉田信之	
	地震減災工学	芥川真一	楢田泰子	
	流域防災工学	藤田一郎 大石 哲		神吉和夫
環境共生工学	環境流体工学	中山昭彦		斎藤雅彦
	水圏環境工学	道奥康治	宮本仁志	
	地圏環境工学		上西幸司	
	広域環境工学	飯塚 敦	河井克之	
	都市安全工学	森川英典		
	都市経営工学	朝倉康夫	富田安夫	井料隆雅

就職状況の報告

教授 森川 英典先生 ㊦

今年度就職担当を務めさせていただきました。この間、暁木会の数多くのOB/OGの方々から就職のお声かけを戴き、また就職ガイダンスなどでも多大なるご協力を戴きました。誌面をお借りして心より感謝申し上げます。

急激な不況の波が押し寄せ、また公共事業に対しての逆風など、今年度は就職環境が一変し非常に厳しい状況であったと感じています。結果としては、下表のとおり、公務員が13名と昨年度の5名から激増しました。また総合建設業については7名と昨年度の5名から増加した半面、コンサルタントは4名と減少しました。就職先の業種の多様化も定着しつつあります。

来年度はさらに厳しい状況になる予測もあります。来年度の就職担当は喜多秀行教授です。引き続きご支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

平成22年3月修士修了・学部卒業予定者の就職内定先・進学予定先一覧

業 種	就職内定先・進学予定先
国家公務員	国土交通省(1)、国土交通省近畿地方整備局(*1)
地方公務員	大阪府(*1)、岡山県(1)、徳島県(1)、神戸市(*3)、芦屋市(1)、西宮市(*1)、川西市(*1)、和歌山市(*1)、横浜市(1)
鉄道	JR西日本(2)、JR東海(2)、阪急電鉄(2)、近畿日本鉄道(1)、西日本鉄道(1)
高速道路	西日本高速道路(2)
総合建設業	鹿島建設(1)、大林組(2)、清水建設(1)、奥村組(1)、東亜建設工業(1)、大鉄工業(1)
建設コンサルタント	日本工営(*1)、復建調査設計(1)、八千代エンジニアリング(1)、シアテック(1)
鉄鋼、鉄構・プラント	神戸製鋼所(1)、JFEエンジニアリング(1)、大成機工(1)
通信	西日本電信電話(*1)
IT、シンクタンク等	新日鉄ソリューションズ(1)、NTTデータ(*1)、富士通関西システムズ(1)、富士通アドバンスソリューションズ(1)、ワークスアプリケーションズ(1)
住宅関連、不動産等	一条工務店(*1)、パナソニック電工ホームエンジニアリング(1)、大和リース(*1)、東急不動産(1)
他メーカー、商社、流通他	商船三井(1)、川崎汽船(1)、三井住友銀行(1)、三井住友海上火災保険(*1)、東京海上日動リスクコンサルティング(1)、明治安田生命(*1)、トヨタテクニカルディベロップメント(1)、岡谷鋼機(1)、第一実業(1)、丸紅(1)、阪和興業(1)、楽天(*1)、ゼンリン(1)
進学	神戸大学大学院博士後期課程(1)、西オーストラリア大学大学院博士課程(1)、 神戸大学大学院(*34)、東京大学大学院(*1)、京都大学大学院(*2)

(2010年2月4日現在)

()内は人数。 *印は学部卒業予定者。

神戸大学・中国地質大学合同学術登山隊登頂記

合同学術登山隊副隊長 山田 健⑦

昨年の KTC、暁木会ニュースの誌上でカンリガルボ山群合同学術登山隊へのご支援をお願いいたしましたところ、多大なご支援をいただきました。おかげを持ちまして目標の KG-2 (6805m ; Lopchin と命名) の初登頂に成功しました。ありがとうございました。

以下に行動記録のうち、頂上アタックの部分抜粋して報告させていただきます。なお、KTC の「母校の窓」に全般的な報告、ルート図を掲載しておりますので、併せてご覧いただければ幸いです。

11月3日、曇りのち小雪。井上、山田が C1 へあげる荷物の残りすべてを担いで ABC から C1 入りする。これでほぼ全員 C1 に集結した。いよいよ明日からの頂上攻撃にむけて体勢が整った。

午後、具体的なアタック計画について日本側と中国側の間で議論を行った。中国側からの提案では、明日4日に日中合同の第1次アタック隊が C2 入りし、5日未明に C2 を出発して一気に頂上をねらうというものであった。確かに好天が1日あれば登頂可能だが、C2 から頂上までの標高差は 1000m を越える。昨年 8 千 m 峰に登っている中国人は完全に高所順応ができていますが、我々日本人はラッシュアタックに耐えられるかどうか。日本人の現在の体調は C2 への登りで消耗しており、アタックは1発勝負の可能性が高い。ラッシュに耐えられなかったら再度のアタックは難しい。日本人 6 人で話し合った結果、日本側は5日に C3 (5910m) を建設して6日に頂上アタックをするべき、との結論を出した。董隊長は日中同時に登頂したいとの意向をもっていたが、先に中国が行き、中国側の第2次アタックに日本人と一緒にいくことで了解した。結果から言えば、それぞれの隊員の状態に応じた方法でアタックしたことが功を奏したといえる。

4日の朝は感動的なモルゲンロートに明けた。一点の曇もないすばらしい天気。KG-2 の肩に沈もうとしている満月の代わりに、シャナ峰の背後から太陽が昇ってくる。白く沈んでいた山々の頂上に陽が当たり淡くピンクに輝きはじめ、頂上部分から徐々に山腹に広がっていく。それに合わせ濃いオレンジ色へと燃え始める。まわりを山に囲まれた C1 では壮大なショーを見ているようだ。

C1 からは、山本、矢崎、近藤、石丸、袁復棟、李生鵬、宋紅、デチン、ダンタが次々と C2 へ向けて出発していく。午後には C2 を建設した。この日は非常に天気が安定して



朝日に輝く KG-2

おり、終日雲が湧くことはなかった。明日予定どおり、中国側 5 人は C2 を午前 4 時ごろに出発し、一気に頂上をねらうこととする。日本側は 4 人で C3 を建設し、1 次アタックをする矢崎、近藤が残って、サポートを行う山本、石丸は C2 へ引き返すこととする。夜、満天の星空が広がっていた。

5日、快晴のちガス。午前 4 時過ぎ、中国人 5 人が頂上アタックに C2 を出発した。天気は良く月明かりの中、登攀を続けた。明るくなる 8 時ころには 6000m を超え、急斜面にロープをフィックスした。10 時、C1 から双眼鏡で東南稜上の 5 人が確認された。5 つの点がじりじりと進んでいくのがわかる。その頃から李、宋の疲労が激しく、頂上到達が無理と判断し、袁が付き添って引き返すこととなった。デチンとダンタの 2 人のチベット人は頂上に向かってさらに登り続ける。かなりの急斜面らしく慎重に登っていく。

正午ごろから KG-2 頂上部にガスが掛かりはじめる。最後の雪庇の下で奮闘していた 2 人の姿が見えなくなる。董隊長が「加油、加油 (がんばれ、がんばれ)」と祈るようにつぶやいている。しばらくして、出し抜けてデチンの声がトランシーバーから聞こえた。中国語だ。井上が牛に聞く「Already?」答えは「Yes!」だ。午後 1 時 18 分、デチンとダンタの 2 人は KG-2 の頂上に人類で初めて立った。C1 の日中の隊長、副隊長の 4 人が抱き合って喜んだ。董隊長は涙を拭いていた。

残念ながら、頂上では視界が良くなかったようだ。ガスの中を下降に移る。彼らはすばらしい体力と技術で順調に下降を続け、すでに日本側が建設していた C3 に寄ったのち、18 時、まだ明るい間に C2 へ帰着した。標高差 1100m、14 時間のロングアタックに彼らは耐えた。

この日、日本側は予定どおり C3 を建設し、矢崎、近藤がそこにどまり、山本、石丸は C2 へ引き返した。中国側の第 2 次アタックの李倫、張瑜が C2 へ上がった。

6日、曇りのち霧。朝から強風が吹いていて、C2 ではテントが壊れそうな程。行動はできない。C3 には明日の朝までの食料しかない。C2 でも特に中国側の食料が少なく、日本側から提供している。アタックのタイミングとしては、隊員の体調、食料などから 7 日がラストチャンスと判断した。つま

り、日本人アタックは1回だけとなる。登頂のチャンスが無くなった C2 の山本、石丸にこのことを伝えた。山本も同意見だった。

C1 での話し合いの結果、7日の予定は、C2 にいる李倫、張瑜、袁復棟、デチン、ダンタの5人で午前4時ごろに出発し、C3 で矢崎、近藤と合流して頂上を目指すこととなった。デチンとダンタは再度アタックするという。夜には風もおさまる。明日の晴天を祈った。

7日、晴れ後ガス。井上、山田は4時半には起きて、テントのなかでガスランプを灯した。長い一日になりそうである。東方に雲があるもののすばらしい星空だ。すでに C2 を出発した5人のヘッドランプの明かりが C1 から見える。C3 ではすでに3時半に起きて準備を整えていた。7時、C3 での合流が遅いと考えていたところ、C2 の山本から、5人の位置が6時頃から動いていないと伝えてきた。同時にデチンから董隊長に隊員の一人（後で李倫とわかった）が脚を捻挫して登れない、全員で引き返すとの連絡が入った。思わぬ状況にあわてた。C3 では矢崎、近藤が状況を知らずに彼らを待っている。早く二人だけでアタックに出発するように伝えなければならない。7時の交信は終わっていたので、次の8時まで待つことになるアタックが時間切れになるかもしれない。C3 を呼び続ける。7時半に C3 が応答した。状況を伝えすぐに出発するように指示する。明るくなった8時、2人が C3 を出発した。7人と2人ではラッセルのきつさは違う。初体験の高度で2人の体力が続くかどうか。ともかく、日本人初登頂の夢は最後にこの2人に託した。

中国人たちは李倫をかばいながら、C2 へ引き返し始めた。食料のことを考えると、李倫の足の状況が良ければ、今日中に C1 まで下ってくるだろう。山田は董に相談し、万一のことを考えてデチンとダンタを C2 に残すこととした。

一方、矢崎、近藤は快調に登行を続けていた。サポートの山本と石丸は11時 C2 を出発し C3 へ向かった。アタックを開始して5時間、午後1時の交信のときに矢崎から、あと1時間くらいで登頂できそうだと伝えてきた。引き返しのタイムリミットは3時と考えていたので、余裕がありそうだと喜んだ。ところが、雪庇の下の斜面でスピードがぐんと落ちた。ラッセルがひどいようだ。そのうちに頂上部分にガスが掛かりはじめ2人が見えなくなる。2時を過ぎ、今か今かと待っていたが連絡がない。タイムリミットの3時の交信で、C3 に上がっていた山本から、引き返させた方がよとの連絡。アタック隊に状況確認すると、近藤から、最後の雪庇の下にいて、あと15m くらいだ、疲労しているががんばりたい、と言ってきた。井上があと30分がんばれと激励する。C2 にいたデチンから英語で、雪庇を右に抜けたところが頂上だと伝えてくる。

3時半、C1 の井上と山田が引き返させようと相談し、そろそろタイムリミットだと無線で伝えたとき、近藤から「雪庇の上に出た、ここが頂上でしょうか」と伝えてきた。デチンの説明を聞いていた井上が、そこが頂上だと答えた。あとで考えると登頂した本人が聞くのはおかしな話だが、雪庇を乗り越えいきなり頂上に出たので戸惑ったのだろう。

午後3時36分登頂。C1 では再び日中の隊長、副隊長4人が抱き合って喜んだ。しかし、時間がない。トランシーバーをオープンにしたまま、直ちに下降に移るように指示した。頂上での GPS は 6805m を示していた。なんと、地図データより100mも高い。アタックに時間がかかった訳だ。C1 では衛星電話を通じて、留守本部の山形先生に日本人登頂の第4報を入れた。

4時、ガスの中、下降を始める。5時に状況を確認すると、まだ雪庇の下の斜面にいる、矢崎の動きが鈍っているとの連絡が入る。高度による障害が出ているようだ。危険な状況にあると判断せざるを得ない。サポート隊が C2 に引き返す時刻となっていたが、C3 待機を指示した。

6時、矢崎の調子は下るにつれて幾分回復したようだ。スピードが上がってきた。フィックスロープを張った危険地帯もなんとか下り終えるが、今度は広い雪面にガスのため、帰る方向がわかりにくくなってきた。トレースは残っていないらしい。GPS を頼りに下っている。

7時、日没、暗くなり始める。矢崎は足がもつれているとのこと。サポート隊も C3 付近は吹雪で視界がなく動けずにいる。山本が近藤にツェルトを被って何か食べるように指示する。疲労困憊しているアタック隊の状況を考えると、このままビバークとなればただでは済まない。

7時半ごろ、近藤から、ガスが薄れて C3 の灯りが見える、自力で降り始めるとの連絡が入る。石丸が持っていた強力ラテルネが役に立った。C3 から山本と石丸が降り始める。山本が近藤に、灯りに向かって降りてこいと無線で叫んでいる。

7時50分ごろ、山本から C1 に、アタック隊と合流したと連絡が入る。C1 では心配していた中国人も含めてようやく安堵する。日本語の通信がわからないデチン達にも連絡する。8時、4人が C3 帰着。12時間のアタックだった。C3 は2人用テントなので、山本、石丸は座って夜を明かした。

長い1日がようやく終わった。



頂上雪庇を越える近藤隊員

現役最前線

阪神電鉄本線三宮駅改良工事

阪神電気鉄道(株)都市交通事業本部工務部 八島 敦^⑳

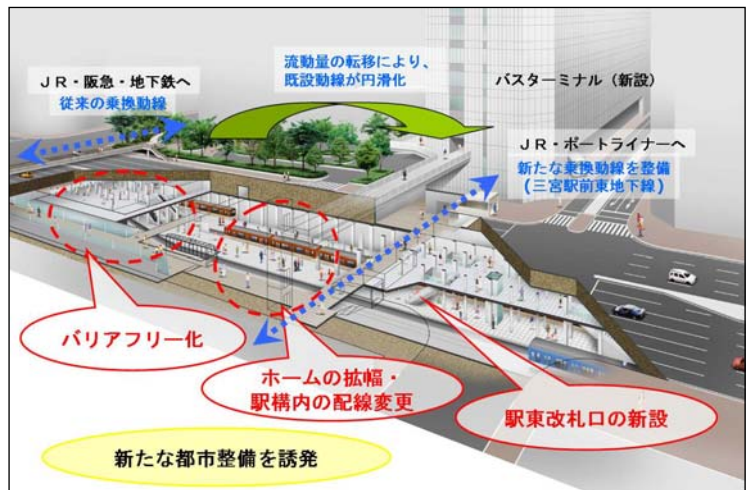


大学を卒業し、阪神電気鉄道に入社してちょうど20年が経ちました。神戸の学校を出たからというわけではないでしょうが、この10年はほとんどの期間を神戸市内で仕事をしており、このため、仕事を通して多数の暁木会の先輩方からご指導をいただき、また、あたたかい激励も頂戴し、大変ありがたく感謝しております。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。私は現在、三宮駅の改良工事を担当しております。この紙面をお借りして、その概要について少しご紹介させていただきます。

弊社三宮駅は、神戸の玄関口として大きな役割を担っていますが、改札口が西側の1か所にしかなく、ラッシュ時には混雑するほか、バリアフリー化や駅での乗継円滑化などの課題を抱えています。そこで、駅施設の利用円滑化と交通結節機能の高度化を図るため、大規模な改良工事を行うことにしたもので、東改札口を新設するほか、既存の西改札口の改築、構内配線の変更、エレベーターの新設などを行っています。また、あわせて、駅周辺でも、新設する東改札口に接続する地下通路などの整備事業が行われ、回遊性や乗継利便性の向上が図られます。

工事は、開削工事で実施しています。現在は、掘削がほぼ完了しており、今後は、新設トンネルく体の構築工事、既設く体の撤去工事、と工事を進めていきます。既存の地下駅の改良工事ということで、難易度の高い工事ですが、細心の注意を払って工事を進めていきますので、今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。

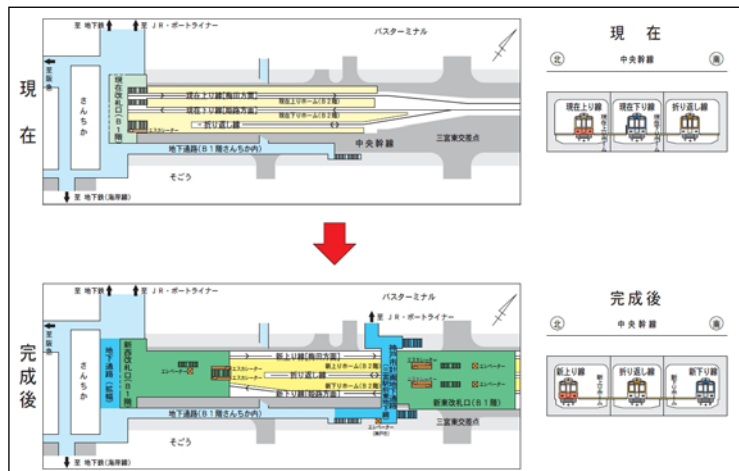
最後になりましたが、当現場の見学はいつでも大歓迎です。どんなことをしているか一度見てやろう、とお思いの方は、ご連絡ください。ご案内させていただきます。



三宮駅整備イメージ図



施工状況写真 三宮東交差点直下



完成予想図

初めての海外建設工事の経験

(株)神戸製鋼所 機械エンジニアリングカンパニー エンジニアリング事業部 建設技術部 中屋行雄 C96

私は、大学卒業後、建設会社へ就職し、国内の現場および設計管理業務に11年半携わりました。その後、現在の所属先に転職し2年半が経過しようとしています。現在は、海外のプラント建設工事における見積積算、設計および施工管理業務を担当しています。ここでは、初めて担当した海外の建設工事について、現場で感じたことを紹介します。

プラントの建設現場は、インドネシアのカリマンタン島にあり、最寄りの空港から車で3時間以上もかかる場所です。施工は、インドネシア国内の建設会社が担当しており、私の担当は土木建築工事に関するマネジメントを行う業務でした。

現場で初めに感じたことは、現場全体の印象です。整然と管理された国内現場に慣れていまいか、最初は不安を感じる面が多くありました。労働安全衛生法などの関連法規制の内容やその違反による社会的制裁の程度、あるいは技術者倫理の成熟度など多くの点で違いがあるもので、日本的な手法を踏襲させることは難しいものです。しかし、就労者の安全と快適な作業環境を考えることも必要であり、目的を示し適切な時期に指導、是正していくことで、改善を図ることができると思います。ただし、まずは自分の身は自分で守る意識を強く持つ必要があると感じました。

本体工事の出来映えについても多くの指摘・改善要求をしましたが、建屋あるいは集水桝のブロック壁や、石積擁壁など組積造の工事は、非常に手際がよく品質も安定していました。市内の住宅などに目を転じれば、組積造の構造物も多く、職人の作業状況からもその熟練度が伺えます。こうした点、つまり、現地の既存構造物がどのような構造をし、材料を使用し、構築されているかという情報なども、設計内容に取り入れていくことができれば、工事工程や品質を確保する観点からも有効であると考えられます。

海外の現場は、意思疎通に不安を抱く方も多いかと思います。私自身も当初は語学力に不安を抱いていましたが、協議の内容が工事の特定の部位に絞られるため、デジカメの写真やスケッチを上手に取り入れることで、業務に支障のない意思疎通を図ることができると思います。この現場では、朝夕に1度ずつ、土建工事関係者を集めた進捗会議を実施していました。夕方の会議後は、同世代の現地建設会社の土木技術者達との雑談で盛り上がりました。日本の物価や流行などの話もしましたが、日本のインフラ事情についても多くの質問を受けました。そのときは、交通・物流網の整備状況、自然災害への対応状況など、現在の土木分野が直面している課題などにも触れて話をすると、皆興味深く聞き入っていました。こちらも、インドネシアのインフラ整備状況について、土木技術者としての考えや思いなども聞くことができ、1日の中でも一番楽しい時間となりました。

写真は、宝飾品の産地として有名で、多くの買い物客が訪れる町（Martapura）へ、現地のエンジニアと市内観光に行ったときの1枚です。ここでの買い物後は、やはり土木好きの集まりなのでしょう？市内観光もせずに、カリマンタン島内一大きいという Barito Bridge の見学へ行ったのです。

海外の現場を経験して、国内の建設工事は、熟練した職人、安定した品質・性能の建材および資機材が揃っており、現場管理者として非常に恵まれた環境にあったことを感じました。海外では国によっては、時間的、経済的制約の中で、工法や材料の選択肢が制約されます。しかし、工事に係わる基礎的な要素技術は同じであり、限られた選択肢の中で課題を解決



Martapura の市場にて

(写真右端が著者)

していく過程は、難しい反面、技術者としての力量が試される機会になります。インドネシアでの経験を通じて、基礎的技術の重要性とその十分な理解の必要性を痛感することとなりました。今は、現場力に一層の磨きをかけたく、海外現場に立てる次の機会に備えているところです。最後に、貴重な投稿の機会を与えていただいたことに感謝の意を記して結びといたします。

研究報告(光の色で労働・生活・都市環境の安全・安心化)

教授 芥川 真一先生③)

従来の社会基盤のモニタリング手法では、コスト、人材不足などの理由で「手法や必要な装置は存在するが、実際にはすべての場所でモニタリングと安全管理を実施することはできない」というジレンマがありました。この点を克服するために、2006年度から推進して来た「対象物に生じている変状を捉え、結果をリアルタイムにその場所で視覚的に表示・確認する方法」では、使用する計測装置自体がデータ表示機能を有しているという特徴があるため、計測結果が「光の色として、いつでも誰にでも見えている」という状態を創り上げることができます。このコンセプト” On Site Visualization” は、これまでに存在しなかった全く新しいものであり、今後、装置のコストダウン化を実現できれば、これまでよりも格段に広範囲のモニタリングが可能となります。また、構造物の安全・危険情報がそれぞれの現場で可視化されるため、専門技術者だけでなく一般市民が様々な形態の異常を早期に発見することができ、事故を防止できるとともに、人的被害などを最小限に抑えることができる可能性を秘めています。「光るセンサ群」はこれまでの産学官協力により、山岳トンネル、都市トンネル、橋梁、グランドアンカー、斜面などに試験的に適用されました。また、最近では、多様なデータ（ひずみ、変位、傾斜、圧力、間隙水圧、温度など）計測装置に連結して、その計測データをリアルタイムに光の色として表示できる最新の光デバイスも開発されています。

私どもの研究室では、これまでにご協力をいただいた企業を核とする OSV 研究会を設立し（2010年1月9日設立）、その活動を通して、産・官・学の協力体制を強化し、光る計測装置の開発と実社会への適用を通じて、人間環境の安全・安心化における新しい概念を国内的、および国際的に普及させ、我が国を含めて、まだどの国でも体験したことがない「光に見守られた新しい都市空間」を創造するために活動を続けてゆく予定です。



この写真は任意構造物の変位をモニタリングするための「光る変位計」。構造物の変形によって LED の光の色が変化することにより、危険情報を可視化できる。(是非、ホームページのカラー版をご覧ください。)

新入会員の大学生活思い出メッセージ

建設学科土木コース 尾崎 早希子

あっという間に4年間が過ぎていきました。4年前、大学に入学したばかりの頃は、家族から離れて初めて1人暮らしを始め、それまでの中学・高校とは違う大学の雰囲気になかなか慣れることができず、不安でいっぱいでした。授業も自分で選び、全て自分で考えて決めなければいけません。今までの生活とは違うことに不安を感じることもありました。逆に新鮮に感じることもあり、大学生活にも少しずつ慣れていきました。

大学に入学して感じたことは、高校までの生活はとても狭くて、ごく一部にすぎなかったということです。大学に入学して様々な人と出会い、様々な考え方や価値観があることを知りました。自分とは異なる価値観を拒否するのではなく受け入れていくことが大切で、受け入れることで自分自身の刺激にもなったと思います。

4回生になると研究室に配属され、また就職活動も本格的になりました。初めてのことで戸惑うこともありましたが、3回生までは先生方と話す機会もあまりなく、授業の時間が中心でしたが、4回生になると研究のことだけではなく日常のことや、就職活動のこと等様々なことを話すようになり、とても楽しく、また勉強になりました。研究室で1日の大半を過ごし、先生や先輩・同級生と一緒に飲み会やゼミ旅行等に行き、サークルやバイトとは違う楽しさがありました。卒業研究でも、分からないことを質問に行くと手を止めて分かるまで何度も教えてくれたり、一緒に考えてくれたりと、先生や先輩にはとてもお世話になりました。

私は4月からは社会人になり、分からないことが多くあると思いますが、頑張っていきたいと思います。これからも先輩方からのご指導よろしくお願いします。

建設学科土木コース 松田 知子

大学生活4年間、気付けばあっという間でした。最初は‘大学’という言葉にわくわくし、不安と期待で一杯だったのを覚えています。いつの間にか不安は解消され、授業、サークル活動、バイト等、毎日忙しく過ごしていました。思う存分遊び、時にはレポートに追われ、とても充実した学生生活を送ることができました。そんな中で、特に印象に残っていることについて2つ話させて頂きたいと思います。

一つ目は、学科の友達と行った温泉旅行です。その旅行は全員分の往來特急券を私が持っていました。しかし、旅行当日、私は集合時間に友達からの電話で目が覚めました。大学生活で一番自分にびっくりした経験のうちの一つです。特急電車の発車時刻にはぎりぎり間に合いましたが、そんな私を怒ることなく、友達は笑って許してくれました。そのとき、私達はお互いに長所や短所を知らず知らずのうちに理解して、それでこそその対応であるのかなと感じました。そんな友達を持てたことは、幸せだと思います。

二つ目は、就職先について大変悩んでいたときのことです。ずっと一人で悩んでいたのですが、思い切って就職担当の先生に相談に行きました。事前に連絡も入れていなかったにも関わらず、先生は大変親身になってお話してくださいました。家に帰ると、家族も私が元気がないのを気遣ってくれていました。本当に、周りの人に支えられているということを実感しました。

私は、大学生活で掛け替えのない友達ができ、先生方、研究室の方々、家族に支えられていました。今度は私自身が人の助けになれるような大人になれるよう、新たに社会人と

してスタート地点に立ちたいと思います。その前に、卒論提出後は存分に遊びたいと思います。

市民工学専攻 門田 朗

卒業まであと約1か月となりました。思い返すと、自分が土木分野を専攻したのは、設備工を営む父の影響なのだと感じます。初めはただ漠然と、人々の生活の基となるようなものを作るのって良いな、程度の考えでした。実際に大学に入り土木を学ぶと、想像以上に幅広く、また生活の非常に深いところまで関与していることに驚いたのを覚えています。

研究は、2008年に起こった都賀川水難事故を対象に行いました。実社会の、人々の生活に直接的に関与する部分を取り扱っていたので、とても興味深いことでした。土木学会の事故調査団にも参加させて頂き、様々な立場の人からの意見や考え方を聞くことは、良い勉強になりました。研究室ではゼミ旅行や飲み会等の楽しさだけでなく、論文締め切り前には徹夜続きでばたばたとしていましたが、今振り返ると良い思い出ですね（喉元過ぎればなんとやらかもしれませんが）。また皆が頑張っている姿勢が互いに良い刺激となり自身も成長できました。最後の1年は一緒に実験・研究する後輩も付いて、今までお世話になった先輩の苦勞も少しは知ることが出来ました。特に3年間指導して頂いた宮本准教授には感謝してもしきれない思いです。

就職は総合建設業の東亜建設工業に決まりました。何か形のあるものを作りたいと考えていた自分の希望通りの業界に就職出来たことを嬉しく感じ、この先ずっと土木のものづくりに携われれば良いなと思っています。

市民工学専攻 宮崎 純一

他大学から市民工学専攻の修士課程に入学して2年間、日々の生活の中で数多くのことを学びました。毎週のゼミで活発な議論が交わされる研究室では、発表者のプレゼンが終わった後に全員が“いい質問”をしようと手を挙げる“いい習慣”に大きな刺激を受けました。自分の頭でしっかりと考え、相手にわかりやすく伝えることの大切さを痛感させられた毎日だったと思います。

学会や学外セミナーの発表では、死にそうになるほど緊張しました。発表前の喫煙所で、緊張のあまり反対にくわえた煙草に火をつけたときには、ここまで緊張できる自分に少し感心したほどです。しかしこうした学外での研究発表経験により、大勢の人前で話す度胸や、人に何かを伝えることの難しさを学ぶことができました。

研究室のメンバーにも本当に恵まれました。全員がそれぞれ決してまねできない独自のカラーを持っており、お互いに高めあう存在だったと思います。日常の研究生活はもとより、飲み会やイベントになるとそのチームワークは人一倍発揮されました。ここまで笑いの絶えない研究室も珍しいのではないのでしょうか。本当に感謝しています。

4月から就職し、社会人生活がスタートします。学生生活が6年間と長かった分、社会に出ることに対する期待と不安も大きいように感じます。おそらく、シビルエンジニアとして働くことになるでしょう。でも、特段「何かでっかいことをやって、すごいエンジニアになってやろう!」とは思いません。あたりまえのことを、本当に大切なことを、しっかりと考えてこなせる人になれたらと考えています。そうすることで世の中に対し少しでも多くの“いいこと”を提供していけるように、これから頑張っていきます。

私のインターンシップ

2009 年度大阪府鳳土木事務所における夏期インターンシップ

神戸大学市民工学科 中島直樹

私は大阪府の鳳土木事務所へのインターンシップを希望しました。その理由は、この夏期休暇を利用して、土木の仕事が実際どのようなものなのかを、見学・体験してみたかったからです。

実習では鳳土木事務所に数多く存在するグループを周って、それぞれの仕事を見学・体験させて頂きました。グループの例としては、道路整備、環境整備、地域支援・防災、河川砂防、公園緑地課などのグループがあります。その中でも特に印象に残っているのは公園緑地課での実習です。鳳土木事務所では4つの公園を管理しており、そのうちの一つである大泉緑地では公園内で羊が飼われています。雑草の除去・癒し・地域力の向上などを期待しているということを教えて頂いたのですが、私は地域力の向上という部分に注目しました。地域の人々と協力して羊の世話をすることで、地域の活性化につなげたいという願いが込められています。雑草の除去や癒しの効果だけでなく、地域の人々のことを真剣に考えて仕事をされていました。地域力の向上を目標にしている政策は他にもあります。校庭の芝生化などもその一例です。この政策には、怪我の減少などの効果だけでなく、地域の人々が芝生の手入れをすることを通じて、地域力の向上を期待しているそうです。

人と人との関わりが希薄になっている現代で、このような政策はとても重要です。毎日いろいろなグループを見学させてもらいましたが、地域の人々と関わることは実際とても多いのです。公務員の仕事をしついでで欠かせない重要な要素なのです。

以上のようなことを学び、この実習を通じて人のつながりの大切さを改めて感じました。

2009 年度西日本高速株式会社 (NEXCO 西日本) におけるインターンシップ

神戸大学市民工学科 社領 沢

僕は夏季休暇中に6日間という短い期間ではありますがNEXCO 西日本でインターンシップをさせて頂きました。僕は元々高速道路業界に興味があり、高速道路の施工管理に携わる仕事をしたかったこと、また民営化されて間もない会社がどのような雰囲気なのかを知りたいと思いNEXCO 西日本のインターンシップの参加を希望しました。

インターンシップでは6日間で実務の仕事、見学の両方をしたのですが実務面ではパーキングエリアの図面や橋の点検に関する報告書を作り、そのことに関して担当の方に手厚く指導して頂きました。見学では吹田にある道路管制センターに行きました。道路管制センターの管轄内になる高速道路で交通事故や交通渋滞が起こったときに実際にどのように対処するのかということを見学でき、とても勉強になったと感じています。また、橋梁の補修工事についても見学しました。補修工事についてNEXCOは現場監督のように現場をまとめるような役割をとっており、作業をまとめる立場からどのように工事に携わっていくかということと工事計画を建設会社と連携して進めていくかということを知ることができました。

6日間という短いインターンシップの中で自分が将来何をしたいのかということが少しずつ見えてくるようになり、実際に企業で働いたり見学をすることで自分の反省点も目に見える形で見つかり非常に有意義なものになったと思います。

最後にインターンシップでお世話になったNEXCO 西日本第二神明道路管理事務所の田辺課長、吉田課長に感謝の意を示したいと思います。

2009 年度 中央復建コンサルタンツにおける夏期インターンシップ

神戸大学市民工学科 松谷幸一郎

8月17～29日の2週間、中央復建コンサルタンツでお世話になりました。中央復建コンサルタンツは計画系・道路系・鉄道系・構造系・調査系・環境防災系の6つの部門に分かれており、さらに各部門からいくつかのグループに分かれていました。僕は構造系部門の海岸・港湾グループに配属されました。

海岸・港湾グループはその名の通り、港や防波堤などの海岸にある構造物に関するグループで、僕は鹿児島湾港の防波堤の資料整理を担当しました。具体的には防波堤のボーリング調査の結果を表にまとめてN値や摩擦角などの値を求めたり、CADでグラフを描いたり、専用のソフトを使って円弧すべりの計算などをしました。一日中パソコンに向かっていたので体と目が疲れましたが、それまでに授業で習ったことがある単語が出てきたので授業の内容が実際に利用されていることが実感できました。また、最終日には現場見学があり、普通では入ることのできない工事中の地下トンネルや共同溝の工事現場などを見ることができました。

今回のインターンシップでは、少しだけでもコンサルタント会社の仕事に触れることができ、そしてなにより‘社会人’という経験ができて、非常に今後の自分のためになるものを得ることができたと思います。

平成 22 年度の暁木一水会の活動予定

平成 21 年度の暁木一水会は、8月に藤田一郎教授の「中小都市河川のゲリラ豪雨対策」のご講演、11月には阪神電鉄の三宮駅改良工事、住吉芦屋間連続立体交差事業の現場見学及び余部橋梁架替工事の視察報告、2月には川谷充郎教授から「橋梁交通振動—環境振動問題とヘルスマonitoring—」のご講演を頂くなど年4回開催し、多くの参加者の中で、各種取組を実施することができました。

平成 22 年度は以下の行事を予定しています。会の名称からもお解り頂けるように、5、8、11、2月の第1水曜日（祝日の場合は翌週）に行事を行っています。各回の案内及び申込み方法につきましては、開催日の約1ヶ月前に暁木会ホームページの行事予定欄でお知らせ致します。

暁木会会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。

回数	開催日	演 題	講 師
113	H22.5.12	平成 22 年度兵庫県・神戸市・大阪府の主要施策	兵庫県、神戸市、大阪府職員
114	H22.8.4	未定	一般の講師等
115	H22.11.10	見学会	
116	H23.2.2	未定	母校の先生

場 所：楠公会館（湊川神社内） 会 費：4,000 円

同窓会報告

土木工学科 27 回生卒業 30 周年同窓会 in 六甲荘

平成 21 年 2 月 6 日(土)に卒業 30 周年記念同窓会を、神戸の六甲荘で開催しました。

当日は、東京、福岡、広島等の遠方からも含め 33 名が駆けつけ、先生方も桜井先生、西先生、川谷先生、北村先生、森津先生にご出席いただき、盛大にとりおこなうことができました。

卒業後初めて出会うというケースや、体型や髪の毛の変化などもあって「あれ誰やったっけ？」という場面もありましたが、すぐに学生時代に戻り、思い出話をサカナに旧交を温めることができました。

卒業後 30 年経ち、社会では中堅の役割を担っているものの、多少疲れを覚えるようになってきていましたが、益々お元気な先生方から大変有意義なお話をいただき、また、参加者全員の本音ベースでの近況報告を聞き、皆元気を取り戻せたのではないかと思います。

また、2 次会では、終電の時間も忘れるほど、楽しく語らい、飲み、かつ歌い、わずか 1 日だけの再会を惜しみつつ、次回、定年間近での再会を約束して皆さん帰途につきました。

(文責：尾原 勉)



土木工学科 32 回生卒業 25 周年同窓会 in 有馬

32 回の 25 周年の同窓会を有馬グランドホテルで開催。先生方 8 名(桜井、西、軽部、北村、沖村、清水、森津、瀬良(敬称略))と卒業生 33 名が集まった(2009 年 11 月 21 日(土)～22 日(日))。新型インフルエンザの中 50%を超える出席率。先生方からは笑顔の中、我々の学年に手を焼いた話しか出てこない(昔も怒られてばかり)。みんな正座して舌を出しながら先生の前でうなだれている。18時にスタートした会も、部屋に戻り飲み続け、ふと時計を見ると 2 時過ぎ。「あと、6 時間でゴルフせなあかんぞ」との泣き声が聞こえてくる始末。「次の 5 年後では寂しい。2～3 年でまたやろう」との声で、やっと眠りについた。本当に面倒なやつらばかりだ・・・



(文責：河村優一)

各支部の取り組みについて

暁木会では全国に4つの支部があり、各支部で各種取組を行っています。是非、異動などの際には、お近くの支部にお声掛けください。総会等の行事予定のご連絡を差し上げます。最近の活動概要をホームページに掲載しています。

支部名	会員数	支部長	事務局（問い合わせ先）	総会予定月
東京	770	長谷康生 ^㉑	三輪享 ^㉓ （前田建設工業 ^株 TEL03-5276-5117） E-mail：miwa.a@jcity.maeda.co.jp	6月
東海	46	宇佐見正重 ^㉒	都築敦 ^㉔ （名古屋市TEL052-781-5211） E-mail：tuzukiatusi@rd.city.nagoya.lg.jp	8月
岡山	52	西垣 誠 ^㉕	西本靖 ^㉖ （岡山県TEL0868-23-1486） E-mail：yasushi_nishimoto@pref.okayama.lg.jp	11月
広島	101	梅田眞三郎 ^㉗	高橋俊之 C98(復建調査設計 ^株 TEL082-506-1853) E-mail：t-takahashi@fukken.co.jp	7月

・ 東海支部報告

平成21年度暁木会東海支部総会を平成21年8月25日（火）名古屋駅前の北京料理店「百楽」で開催しました。来賓として大学より川谷充郎教授、暁木会本部より尾原勉様にご参加いただき、東海支部会員16名とあわせて18名による支部総会となりました。

支部総会では、佐藤支部長から3月に開催された暁木会総会の報告、支部役員の改選等にひきつづき、川谷先生から大学の近況報告、尾原様から本部の活動状況など、お話をい



ただきました。引き続き行われた懇親会では、年に1度の会員同士の再会に会話とお酒が進み、大いに盛り上がりました。今回初めて参加した若手会員からは、次回も参加します、との力強い言葉がありました。

東海支部では、支部総会参加者数が伸び悩んでおりますが、若手会員の発言にあるように、一度参加すれば、支部総会の楽しさを知っていただけたと思いますので、是非、支部会員の皆様のご参加をお待ちしております。

報告者 東海支部事務局 名古屋市役所 都築 敦^㉔

・ 岡山県支部報告

平成21年度暁木会岡山県支部総会を平成21年12月5日（土）に、JR岡山駅前の「えきまえミヨシノ」で開催しました。本年度は、来賓として大学から藤田一郎教授、暁木会本部から亀山剛司副会長にご出席いただき、支部会員15名と合わせて17名での開催となりました。

総会では、河合副支部長の挨拶に続き、藤田教授からは JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定、教職員の異動や新型インフルエンザの蔓延防止のため大学が一週間休講になった事など市民工学教室の近況をお話いただきました。また、亀山副会長からは、暁木会と

大学との交流や名簿発行など本部の活動内容のお話をいただき、合わせて本部助成金目録を贈呈していただきました。なお、役員改選では、西垣支部長⑩、河合副支部長⑫が留任で選出されました。

その後の懇親会では、萩原明氏 C15 の乾杯の発声ではじまり、仕事上の話はもとより、政治、趣味や健康の話など多いに盛り上がり、あっという間に予定の時間が過ぎ、上杉浩國氏⑧の一本締めで2時間の懇親会を終えました。



本年度の支部総会への出席者は例年に比べてやや少ない状況でしたが、今後とも幅広くお声かけをしていきたいと考えていますので、一人でも多くの方がご出席くださることを心よりお待ちしております。

報告者 岡山県支部事務局 岡山県（美作県民局建設部） 西本 靖⑳

暁木会年会費納入のお願い

平成 15 年度から導入いたしました年会費につきましては、現在、1、000 余名を数える会員各位にご理解とご協力をいただいています。本誌をもってお礼を申し上げます。

しかしながら、暁木会の安定した運営を行うためには未だ十分ではありません。現在、クラス幹事や各職場の世話人を通じて会費納入の依頼を行っているところです。会費納入の手続きが未了の会員各位には、引き続きご理解とご協力お願い致します。なお、手続き等に関する問合せは、巻末の連絡先（野並）までお願い致します。手続き関連書類を送付させていただきます。

※年会費の集金方法につきまして、現在、集金代行業者（三菱UFJニコス株式会社）に委託し、会員の指定金融機関から年1回の自動引落しの制度を採用いたしております。

平成 22 年度の名簿発行について

平成22年度は会員名簿の修正版を出す予定です。名簿の記載より変更のある方は、（平成20年度の名簿を発行したときに調べた平成20年9月以降）同封のKTC宛ハガキに変更事項を記入して送付して頂きますよう、よろしく申し上げます。特に、今後暁木会の活動報告にメーリングリストを活用していきたいと考えておりますので、現在KTCからの通信が届いていらっしゃる方は、是非この機会に登録して頂けますようお願いいたします。

暁木会平成 21 年度総会のご案内

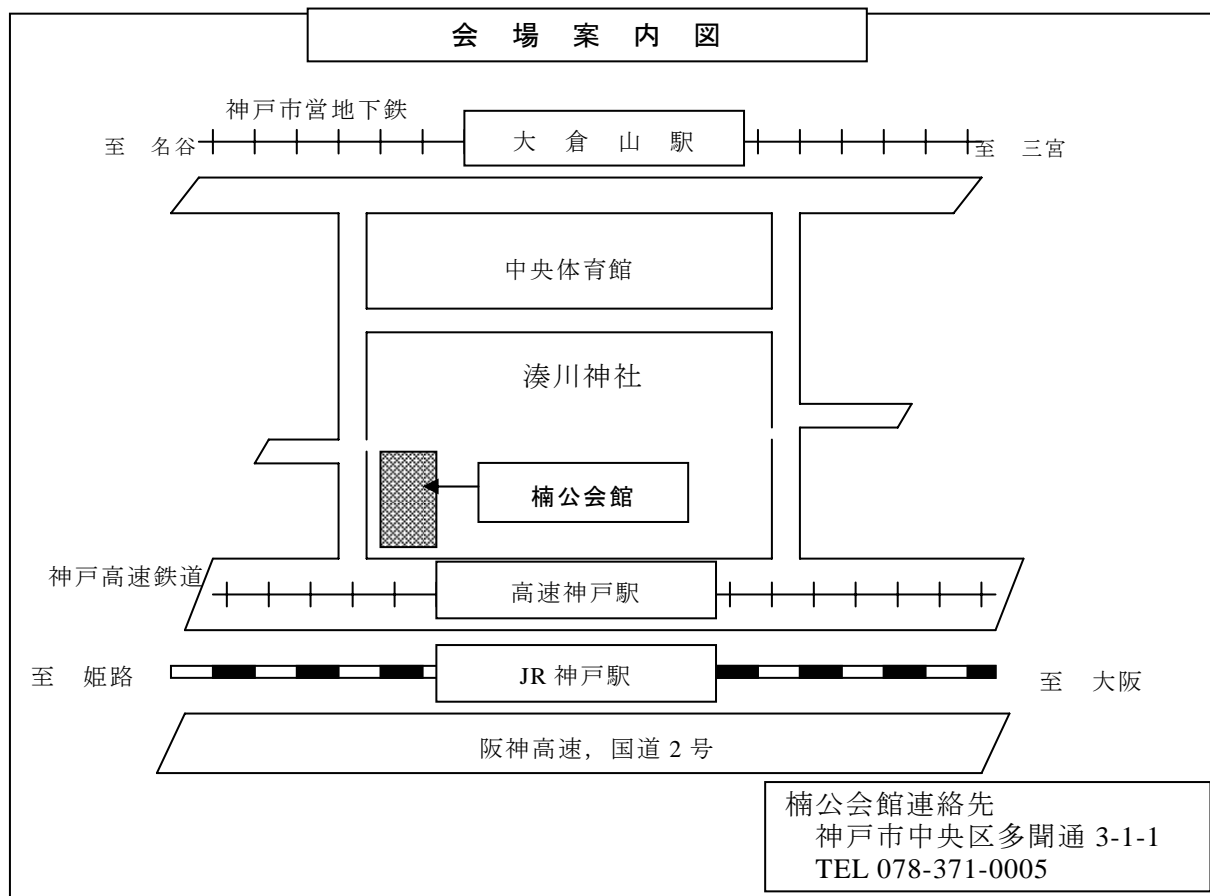
平成 21 年度総会を下記のとおり開催いたしますので、ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席のほどよろしくお願いいたします。

■日 時 平成 21 年 3 月 25 日 (木) 午後 6 時～午後 7 時

■場 所 湊川神社 楠公会館

(最寄駅は、JR 神戸駅、高速神戸駅または地下鉄大倉山駅)

■その他 総会終了後、同会館内で懇親会を開催しますので、あわせてご出席いただきますようお願いいたします。なお、会費 (5,000 円) は当日徴収いたします。



おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。下記、連絡先まで、ご意見をお寄せください。

発行者：暁木会

連絡先：会計幹事 野並 賢 C96

応用地質株式会社神戸支店

TEL : 078-252-2108 FAX : 078-252-2109

E-mail : nonami-satoshi@oyonet.oyo.co.jp

http : //www.gyoubokukai.jp